

新水族博物館、建設費用だけで63億円

橋爪議員「集客の前提の経済情勢検討は?」と指摘

1月25日、市議会総務常任委員会の所管事務調査が行われました。調査の目的は、新水族博物館の検討状況についてと、新市建設計画の変更についての2つです。

新水族博物館に関しては、新水族博物館の整備に係わる有識者検討委員会(以下、有識者検討委員会と呼びます)がまとめ、市長に提出した報告書について市側が説明しました。そして、それをめぐって質疑を行いました。

有識者検討委員会は、新水族博物館の整備をめざし、経営面からの実現可能性を検討することを目的に設置されたもので、集客見通しや事業収支・損益分岐、実現可能な整備・運営手法、経済波及効果の把握・推計について議論してきました。その結果、集客数は、「標準パターンで開館初年度約60万人、2年目49万人、20年間平均で約37万人と予測」される、「(5年ごとに3億円の)再投資費用の確保を考慮しても十分事業が成立する」と、結論づけています。

橋爪議員は、「新水族博物館整備後の20年間の見通しを立てておられるが、今後の経済状況がどうなるかが大きく影響する。今の厳しい状況からいって、簡単には雇用の拡大、消費の高まりは期待



況がどうなるかが大きく影響する。今の厳しい状況からいって、簡単には雇用の拡大、消費の高まりは期待

できないのではないかと。悪くなる可能性もある。経済情勢は集客の前提となるが、その点、どう考えて検討されたか」と質問しました。

これに対して竹田企画政策部長は、「経済状況については、将来見通しできないし、議論していない。集客予測は過去10年、20年の状況を加味して予測している。決して楽観視していない」と答えました。他の委員からも、「北陸新幹線開業後、観光客が50%増えると見込んでいるが、九州のように観光資源が多くはない中で、本当に集客を見込めるのか」「集客のベースは上越地域の子もだ。少子化が進む中で予測通り集客できるのか」という声が上がりました。

報告書では、「(新水族博物館の)運営事業者が、早期から施設計画に関わる仕組みを取り込んだ新たな上越方式の整備手法の検討が必要」「設計前段階から指定管理予定者の募集を行い、早期に運営者を特定し、協定を結ぶ手法をとること」などを提案しています。この点についても質問が集中しました。

橋爪議員は、「(基本計画だけでなく)具体的な計画が決まらない中で契約(協定)していくというのはイメージできない。全国の自治体でこういう手法を採用しているところがあるなら明らかにしてほしい」と質問しました。対して竹田部長は、「他自治体の事例は確認できない。法的、制度的には今後十分検討していかなければならない問題だ」と答えました。

新水族博物館は建設費用だけでも約63億円かかります。党議員団では、今回の報告書をもとに、「市民のみなさんのご意見をお聴きする会」などを開催(右の案内をご覧ください)し、建設の是非も含めて市民のみなさんの声をお聴きして、対応していきます。ぜひ率直なご意見をお聴かせください。

上越地区労連の新年旗開きに参加

力合わせ参院選勝利を誓い合う

「不当解雇とたたかう日本航空労働者を支える会」の齋藤さん、控訴審の勝利に向けて特別訴え



1月24日には、市内で「上越地区労連の新春旗開き」が開かれました。この旗開きには、日本共産党議員団3人そろって参加。橋爪団長は日本共産党議員団団長として、上野議員は日本共産党上越地区委員長として、平良木議員は国民救援会代表として参加し、それぞれ来賓として挨拶しました。



同旗開きには、JAL不当解雇撤回裁判原告団事務局長の齋藤晃さんも特別参加されました。不当解雇されて3回目の正月を迎えたという齋藤さんは、挨拶の中で、「控訴審で勝利するためには、1万人の団体署名、100万人の個人署名が必要。裁判に勝ち、好き勝手に解雇できない社会をつくりたい」と力強く訴えました。齋藤さんは旧姓中嶋、橋爪議員と同じ旧吉川町の出身です。

市民のみなさんのご意見をお聴きする会

—新水族博物館をめぐって—

2月15日(金) 18:30~20:30

上越市市民プラザ第一会議室

入場無料 どなたでも参加できます

率直なご意見をお待ちしています

ふるってご参加ください



日本共産党上越市議員団ニュース

No.349 2013年2月3日

連絡先

橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)
上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)
平良木 哲也 090-1808-6919 (上中田)